

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892100033		
法人名	株式会社 ラ・ストリア		
事業所名	グループホーム あゆみ荘①		
所在地	茨城県ひたちなか市津田3723-2		
自己評価作成日	平成21年9月25日	評価結果市町村受理日	平成22年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-koubyou.as.wakwak.ne.jp/koubyou/infomationPublic.do?JCD=0892100033&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成21年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『自立に向かい 共に歩く場所』をモットーに、利用者の「第2の我が家」に近づけるよう、支援・介護に努めています。食事は職員が調理し、ソフト食作りにも取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地ではないが近隣の工場と交流を持ち、お祭り等のイベントに参加されるなどの努力工夫がみられた。地域との交流のほかに、個別の要望に応えられるよう外出方法の検討が進められている。その他にソフト食の取り組みによる利用者の食事を楽しむことの出来る支援や、看取りの経験から得た学びや職員・家族からの意見を大切にした重度化や終末期の取り組み等、日々の業務改善に向け具体的に取り組んでいることを確認することが出来た。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義をふまえた理念にはなっていないが施設の理念に基づき介護にあたっております。	土地柄、地域密着を取り組むには難しい環境ではあるが、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを念頭に理念を掲げ、共同生活においてもその人らしさを大切に個別ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周りには民家がない為地域の方々と交流がとれていない。 行事のお誘いの声かけには出来る限り参加させていただいております。	地域行事の参加や事業所のイベントに声かけを行い関係作りに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただいたり、近くのレストランに行ったりと認知症の方々でも普通に過ごせることをわかってもらえるようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アドバイスをいただいた時は、出来ることは行ってっております。	年間計画を立て取り組んでいる。会議内容は事業所の状況報告、各委員会から活動報告、地域からの情報収集等、前回会議で取り上げられた検討事項についての取り組み状況の報告を行っている。	事業所の取り組み内容や具体的な課題について話し合いが行われていることを理解してもらうために、参加されなかった利用者家族へ報告する仕組みを検討してもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡をとっているとまではいえないが、アドバイスなどをいただいたり協力関係を築いております。	包括支援センターと連携を取り、近隣のグループホームとの交流が持てるようになり、互いに情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、玄関の施錠は構造的に開けておけない。 ただし、入所者が外出希望時は外に行けるようにしております。	事業所周辺は用水路があり、交通量の多い幹線道路で危険が潜在しているためオートロックとなっている。	危ないから施錠することが当然のように考えるのではなく、日中施錠しない時間帯を決め、利用者の行動パターンを把握するなどの工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修後に勉強会を行っております。ボディチェック表を作成し注意を払っております。		

茨城県 グループホームあゆみ荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村からの研修案内が来た時には研修に参加し学んでおります。研修後は全スタッフに研修報告をし活用できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っております。又 わからないことがあった際は後日でも連絡をいただき十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にスタッフに伝えやすい関係を築いております。又意見があるか面会時にこちらから伺うようにしております。	家族の面会時に声かけを行い、何でも言ってもらえるように心がけている。話し合いの内容に漏れがないよう「家族への連絡ノート」の取り組みが始まった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見がいつでも言えるような関係作り心がけております。スタッフの意見を反映できることは行っております。	各種委員会を通じて意見が出され運営面での向上に努めている。管理者は職員から年1回アンケートを取りニーズを把握するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に介護チェック表や評価票を施行させその後面談を行い、やりがい、向上心をもてるようアドバイスを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が来た際、全体会議や回覧でスタッフに知らせ参加できるようになっております。研修後は全体会議にて報告を行い全スタッフにわかるようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流(ネットワーク作り)を持つことができ、意見交換も勉強になっております。研修にも積極的に参加できるよう、時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が意見を言える場合には、要望をご本人より聞いていますが、意見の言えない場合は家族より意見を聞いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来荘された時に不安なこと聞きアドバイスなどをしております。又何度か自宅へ訪問を行い関係作りを行ったりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅で介護が少しでも可能な時は、デイ・ショートスティを利用することも伝えて家族に選んでいただいております。その方にあったサービス利用の助言を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらがやってあげていると思うのではなく、介護させていただいていると思うこと。一緒に生活をしているという気持ちを常に持つよう心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来荘しやすいフロア作りをしております。又食事会など開催して交流をもてるように心がけております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などの面会あり交流はできているが、場所へは行けておりません。	家族の協力を得て馴染みの理容室に通ったり、墓参りに行く等の支援を行っている。馴染みの人の面会もあり、関係継続の支援に努めている。また、家族に面会者の報告も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和室、食堂での席の配置を考えて入所者同士が支えあえるようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、いつでも相談にのることを伝えておき、来荘、電話などで相談に応じております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努めておりますが、訴えることのできない方もいますので全入所者の訴えを聞いていない。本人が訴えられない場合は家族と話し合いしております。	居室担当制になっていて、日々の気づき(利用者の訴えやケアをしたときの反応)を記録し、ニーズの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅などに訪問し生活歴などを本人、家族より伺い把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自ら訴えられる方が少ない為、スタッフが入所者の方々の様子をみてその日の心身状態に応じた対応をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度のカンファレンスを開きスタッフ全員で話し合い入所者の方々がより良い生活が送れるよう介護計画を作成しております。	家族からの要望や経過記録、受診ノート、連絡帳などの情報を基に計画を立案。ターミナルの計画については家族も一緒に参加してもらい検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳、気づきノートなどに記入し情報を共有しカンファレンスにて話し合っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで対応不可能時などは同グループの施設に協力を願い対応しております。		

茨城県 グループホームあゆみ荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内にボランティアに来ていただいたり、地域の行事には参加しておりますが、個々にあった地域資源を活用はできておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最低1ヶ月に1度の定時受診をしておりません。体調不良時にはすぐに主治医に連絡をとり、受診できるようになっております。	受診内容について家族の方が納得してもらえるよう同行を勧めている。同行できない家族には電話で受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループの施設看護師やクリニックの看護師等に相談をしアドバイスなどをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医紹介の病院に入院していただいております。入院中は病院へ面会に行き担当の看護師より情報をいただいております。家族とも電話連絡し退院後の話し合いを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全家族と終末期についての話し合いはできていない。施設でできることは限られている為、入居者へ最良の支援ができるように早い段階で家族と話し合いをもてるようにしていきたい。	早期からの話し合いの必要性を理解しており、重度化に伴う意思確認書を早い段階から取り交わせるよう準備を進めている。職員からはターミナルケアの研修を希望していることが確認できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、何時でも再確認できるようにはなっているが訓練を定期的に行っていないので、訓練を行っていきよう努力していきたいと思っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する施設との合同訓練は行っているが、グループホームのみでの訓練はできていない為、年に1度はグループホームのみで行いたい。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て隣接する施設と合同の避難訓練を行っている。来年度は事業所独自の訓練を予定し、昼夜想定計画書を作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者ひとりひとりに合った声かけ、人格を尊重するようなケアを心がけております。	利用者の個人情報に関する守秘義務について十分理解し、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を大切にし分かりやすい言葉で話すよう努めております。訴えることの少ない入居者の方々には会話を多くし読み取れるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースでの対応を心がけておこなっておりますが、職員不足の時など職員寄りのペースで行ってしまうことがあるので入居者のペースを大切にできるようにしていきたいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、行事の時などお化粧などをしおしゃれをしていただいております。その時々々の生活に合った服装にするようにさりげなく支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の方がいる為スタッフと入居者が一緒に食事はできていない。1週間に1度入居者全員で食事作りができるようメニュー作りを行っております。片付けなどではできるだけの方々に行っていただいております。	咀嚼力が低下している利用者にも食事が楽しめるようにきざみ食ではなくソフト食の提供に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のない時などはご本人の好きな物を召しあがっていただいたり、栄養ゼリーを摂取していただいております。1人1人の体調や状態に合わせた調理方法(刻む・湯がく・味付け)盛り付け等にも気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者に毎食後口腔ケアを施行しております。磨き残しがある方は介助し対応しております。		

茨城県 グループホームあゆみ荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導をしオムツはずしができるよう支援しております。オムツの方も腹満がある時はトイレ介助し排便を促すようにしております。	排泄チェック表を使用し、時間誘導でトイレで排泄できるようにしている。ポータブルトイレの使用も極力避け、トイレ誘導の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い物を召しあがっていただいたり、軽い運動を行っていただいたりしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも1日おきに入浴していただいております。職員の都合で時間帯が決まっていますが、1人1人ゆっくりと入浴していただいております。	一人ひとりゆっくりと入浴してもらえるように時間調整している。1階のユニットでは毎日足浴に取り組み、むくみが解消され歩行推進に効果を上げていて、全ユニットで行えるよう全体会議で検討する予定。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方も検討し、夜は心地よい眠りが出きるよう気をつけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している内服薬がすぐ見れるようファイリングしてある。新たな処方、変更があった時は連絡ノートに記録し申し送りスタッフ把握しております。入居者が確実に服用できているか見守り服薬確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が偏ってしまっているが少しのことでできればスタッフが一緒に行い、役割、楽しみがもてるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩には行っているが、買い物などには行けていない。家族の協力での外出も難しいのでスタッフと共に外出する機会を多くできるようにしていきたいです。	周辺の散歩や、食材の買出しに出かけている。今後は外出の機会を増やすために各ユニットが協力しての外出を検討している。	

茨城県 グループホームあゆみ荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の預り金としてスタッフが対応している。買い物に行った時はご自分でお金を払っていただいたりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1年に1度年賀状を送っております。電話の希望は応じることができませんが、今のところ希望者がいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、和室にはこたつなどを置き家庭的な空間を作っております。室内は適温を保つようにしており、不快な音などがないように心がけております。	花を飾ったり、コタツのスペースがあり、生活感、季節感を取り入れる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、食堂にて思い思いに過ごされており、気の合った利用者とも会話を楽しまれております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でいた時に使用していた物を持ってきていただけるよう入所時に説明し家族と話し合い居室作りをしております。	好みに応じてベッドや床に布団を敷く等自由に過ごされている。居室にはそれぞれ洗面所が設置され、歯磨き・口腔ケアは自室で行えるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を極力なくし廊下、浴室、トイレ等に手すりを取り付けてあります。転倒の危険の高い浴室では声かけ、見守りを徹底しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	施設の取組み内容や課題について話し合いをしている状況を理解していただく為の仕組みが無い。運営推進会議ではどのような内容が話し合われているか、外部へ公表していない。	議事内容や施設での取り組みを運営推進会議に参加されなかったご利用者・ご家族にも報告できるようにする。	施設通信や請求書送付時のお便りに、議事内容を添付する。もしくは、施設内での掲示を行う。	12ヶ月
2	6(5)	施設周辺が用水路で囲まれ、玄関を出るとすぐに駐車場の通路となっており危険が多い為、各階の扉が常に施錠されている。しかし、ご利用者の自由の妨げになる。	ご利用者の要望を常に把握し、外出したい時には出来る限り応えられるようにする。また、ご利用者の妨げになる事を出来る限り排除する。	散歩や食事など積極的に屋外へ出るよう心がける。また、出来る限り時間を決めて開錠できるよう努める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。